

めぐみイエス・キリスト教会

2021年6月13日(日)第二主日礼拝
週報「通算第561号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌311「いかに恐るべき」 p. 494

【交読文】 No.8詩篇第24篇 p. 885

【賛美Ⅱ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」 p. 150

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.16「ラッパを吹き鳴らせ」

【聖書朗読】 使徒の働き9章19節後～25節(新約p. 251下段)

【礼拝説教】 《迫害者から伝道者へ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き9章19節後～25節)

9:19後 食事をして元気になった。サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちと共にいて、

9:20 ただちに諸会堂で、「この方こそ神の子です」とイエスのことを宣べ伝え始めた。

9:21 これを聞いた人々はみな驚いて言った。「この人はエルサレムで、この名を呼ぶ人たちを滅ぼした者ではないか。ここへやって来たのも、彼らを縛って、祭司長たちのところへ引いて行くためではなかったか。」

9:22 しかし、サウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。

9:23 かなりの日数がたち、ユダヤ人たちはサウロを殺す相談をしたが、

9:24 彼らの陰謀はサウロの知るところとなった。彼らはサウロを殺そうと、昼も夜も町の門を見張っていた。

9:25 そこで、彼の弟子たちは夜の間に彼を連れ出し、籠に乗せて町の城壁伝いにつり降ろした。

●ポイント1. 「ダマスコのアナニア」とは？

※使徒の働き22章12節～16節「使徒パウロの証し」(新約p.281下段)

●ポイント2. 「サウロがダマスコにやって来た」理由とは？

※使徒の働き9章1節～2節「最高議会において」 (新約p.250上段)

9:1 さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅かして殺害しようと息巻き、大祭司のところに行って、

9:2 ダマスコの諸会堂宛ての手紙を求めた。それは、この道の者であれば男でも女でも見つけ出し、縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。

●ポイント3. 「主イエスの約束と預言」とは？

※使徒の働き1章8節「十一使徒への主の言葉」 (新約p.232下段)

1:8「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、私の証人となります。」

※使徒の働き9章17節「アナニアの言葉から」 (新約p.251上段)

9:17 そこでアナニアは出かけて行って、その家に入り、サウロの上に手を置いて言った。「兄弟サウロ。あなたが来る途中であなたに現われた主イエスが、私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるためです。」

◎先週のメッセージの概要【アナニアによって】

《使徒の働きに戻ります。3月21日「ダマスコ途上にて」の続きとなります。「サウロ、サウロ、なぜ私を迫害するのか」「主よ、あなたはどなたですか」「私は、あなたが迫害しているイエスである。立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたがしなければならぬことが告げられる。」

さて、サウロはダマスコのユダヤ人の会堂につれて行かれます。そして、彼は三日間、目が見えず食べることも飲むこともしませんでした。この三日間こそが、主イエスが墓に葬られてから復活するまでの三日間とほぼ同じとあると私は考えます。つまり、十一使徒たちが、絶望のまっただ中であって、真暗闇の中を過ごした時間と全く同じであると言う事です。

洗礼者ヨハネの弟子が訪ねて来た時、主は彼らに預言されたのです。『「花婿と一緒にいるのに、花婿に付き添う友人たちに断食させることが、あなたがたにできますか。しかし、やがて時が来て、花婿が取り去られたら、その日には彼らは断食します。」』と。

主が預言された断食とは、自分たちの意思によるものではなく、絶望と深い悲しみで、彼らは食べる事も飲む事も出来なかったと言うことです。

ところでサウロはこの三日間、何を祈っていたのでしょうか。目が見えるようになることは当然ですが、一番は、自分が迫害し死に追いやった信者たちのことです。彼は罪が示され、自責の念に捕らえられていました。

そこへアナニアが登場します。後に、パウロは彼について証言します。「すると、律法に従う敬虔な人で、そこに住んでいるすべてのユダヤ人たちに評判の良い、アナニアという人が、私の所に来ました。」と。

主イエスは、迫害者サウロを選ばれ、伝道者パウロとされました。その為には、アナニアが必要不可欠であったわけです。アナニアが存在しなければ、異邦人の使徒パウロは誕生しなかったのかも知れないのです。実は私たちもこのアナニアであるのです。私たちも、誰かが主イエスに出会い救われる為に、主イエスが用いようとされる「器」でもあるのです。》

◎お知らせ

※次回主日礼拝は6月20日(日)教会にて通常とおりに行ないます。聖書勉強会・祈り会は6月16日(水)各家庭にて行ないます。